

佳作 おばあちゃん～現在と未来の～



エンフトヤ デルゲルツェツェグ
ENKHTUYA DELGERTSETSEG
国 籍 モンゴル
職 種 介護
実習実施者 社会福祉法人ハynesライフ
監 理 団 体 GTS協同組合

私は介護技能実習生として2年前に日本にきました。コロナで飛行機が飛ばず、2年以上待ちました。あきらめようと何度も思いました。でもモンゴルの家族や先生に頑張ると励まされ、日本に行く日を待ちました。

所属する法人は、実習生を大切にしてくれます。そのため介護技術も日本語もどんどん上手になりました。高齢者介護で一番大切なことは、たくさんお話すること。まず、名前を覚えることです。漢字に慣れないモンゴル人には簡単ではありません。お年寄りを名前で呼ぶと、私の名前を覚えてくれます。すると、「大丈夫。日本語分かるよ」と言ってくれます。私はとても嬉しくなります。

女性のKさんは、お風呂に入りながら歌うのが大好きです。お気に入り「靴が鳴る」です。「♪お手でつないで…晴れたみ空に靴が鳴る♪」と一言も間違いません。私は歌っているKさんの可愛い顔が好きです。もう一つあります。子育ての思い出話をするお母さん顔も好きです。Kさんも私もお母さん同士ですから、よく気持ちが分かります。ある日、Kさんは靴が鳴るの歌詞を少しでも書いてくれました。私はネットで音声を探し

て、何回も歌いました。どうしてこの歌が好きなのか分かりました。優しい歌だからです。私は全部覚えてしまいました。次の入浴の時、私が全部歌うと、太陽のようなニコニコ顔になりました。私は日本の優しい歌をいっぱい覚えて、お年寄りに歌ってあげようと思います。

男性のLさんは毎日新聞を読むインテリです。私も一緒に読む時があります。私の日本語が下手なのを知っているLさんは、短くて読みやすいものを選びます。私が知らない漢字は何度も大きな声で読んでくれます。「大丈夫。日本語は難しくない！」と励まします。周りの利用者さんは、L先生のモンゴル人への授業風景を見てニコニコです。私の下手な日本語を「上手ですね」とやさしい『うそ』を言います。施設のお年寄り、みんな私の大切な大切な日本語の先生です。

モンゴルには高齢者介護という考え方はありません。老人療養施設は少しあります。お年寄りの少ないモンゴルと、あふれる日本の違いでしょう。今は若い私たちも、いつか必ず高齢者になります。今お世話している高齢者は、若くて元気なころ、次の世代のためにいっしょうけんめい働きました。長野の農村にあるこの施設には、小さな農家だった方が多いのです。施設の外は、りんご畑とぶどう畑。今は春の花盛りです。山に生まれ育ったお年寄りは、果樹の花が咲きほこる中で、穏やかに暮らしています。

私は介護の仕事が大好きです。お年寄りには、いつでも安心して長生きして欲しい。誰かが疲れ、困っている時には、みんなで助ける。私は高齢者を全力で助けます。いつか私もおばあちゃんになって、助けてもらうことになるのですから。